

は乏しい腫瘍を指摘され、画像上は脂肪腫の可能性も指摘されたが、頻度から脂肪肉腫の可能性が高いとの見解であった。切除標本は130×60×50mmの均一な黄色腫瘍で線維性隔壁を伴った成熟脂肪腫の増殖が認められ脂肪芽細胞や異型間質細胞は明らかではないため現段階では脂肪腫との診断である。

【結語】後腹膜脂肪腫の1例を経験した。若干の文献的考察を加えて報告する。

## 11. 臀部の皮弁術後に陰圧閉鎖療法を併用した2例

形成外科

○沼 美由紀 高田 温行  
最所 裕司

臀部の皮弁術を行うにあたって問題となるのは、汚染しやすいことや創部の安静が得られにくいことが挙げられる。しっかりと固定を得るためには汚染しにくいようドレッシングを行う必要があるが、皮弁が視認しにくいことが欠点である。また術後は長期間床上安静が必要となるため患者にとってストレスが大きい。

そこで我々は臀部の皮弁術後に陰圧閉鎖療法を併用することで、患者に安静を強いることなくしっかりと固定が可能となり、良好な経過が得られたため報告する。

## 12. 特発性正常圧水頭症に対する髄液シャント手術の有効性の検討

脳神経外科

○新光阿以子 皮居 巧嗣  
高橋 和也 高野 昌平

特発性正常圧水頭症は歩行障害・認知症・尿失禁を3兆候とする疾患で、「治療により改善する認知症」として知られている。

しかし、これらの症状は、高齢者一般によく見られる症状であり、また、画像上、脳萎縮との区別に難渋することもある。手術適応を判断するために、髄液排除試験を行い、効果が得られた症例に対しシャント手術を施行すること

が、ガイドラインで推奨されていたが、近年の研究の進歩により、正常圧水頭症に特徴的な画像所見が、シャント手術の有用性に役立つと考えられている。当科でも、髄液排除試験を行い効果があると判断した症例や、画像上典型的と考えられる症例に対し、シャント手術を施行している。

今回、典型的な画像所見を有しかつ髄液排除試験でも効果が得られたためシャント手術を行った症例と、画像所見は典型的ではないものの髄液排除試験で効果が得られたためシャント手術を施行した症例の、術後経過を比較検討し報告する。

## 13. 院内がん登録データを利用した他施設との初回治療の実績比較について

がん診療連携課

○安東 正子 井上 豊子

当院は、国指定のがん診療連携拠点病院として、国立がん研究センターへ院内がん登録のデータを提出している。院内がん登録の目的には、自施設のがん診療の実態の把握・評価を行い、かつ他施設との比較により、がん医療の質の向上を図ることがある。

この度、国立がん研究センターが2016年症例の全国集計を公表した。このデータを用いて、当院の兵庫県における5大がん（胃、大腸、肝臓、肺、乳房）の治療実績割合を集計、また全国の施設と比較した結果を報告する。

1年間に当院で初回治療が実施された件数は、データ提出した兵庫県28施設の中で、乳がん336件（14%）、肝細胞癌103件（11%）と最も多く、全国では772施設中、乳がん23番目、肝細胞癌15番目に初回治療の実施件数が多い状況であるとわかった。

今後も、院内がん登録データを利用して当院のがん診療の特徴となる統計を提示していきたい。